

パフォーマンスデータ収集手順

日本アイ・ビー・エム
Power Systems テクニカルセールス

- パフォーマンスデータ収集状況の確認
- (停止している場合のみ) パフォーマンスデータ収集設定
- (停止している場合のみ) パフォーマンスデータ収集の開始
- パフォーマンスデータの分析準備 (*SAVF保管)

- コマンドラインで「GO PERFORM」と入力して実行します
- 「2. パフォーマンス・データの収集」を実行します
- 状況を確認します
 - 開始：パフォーマンスデータ収集中->収集ライブラリーを確認してp.6へ
 - 停止：パフォーマンスデータ収集は停止中->P.4へ



(停止している場合のみ) パフォーマンスデータ収集設定



- (p.3の画面で) 「2. パフォーマンス・データ収集の構成」を実行します(もしくはCFGPFRCOLコマンド+F4)

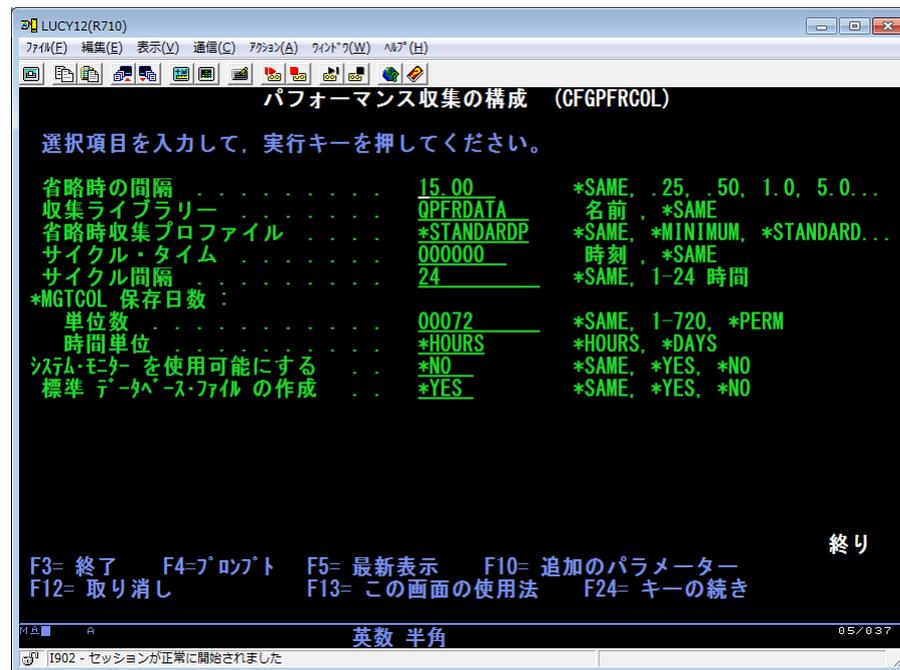
- **パラメータを確認・設定します**

※特に以下のパラメータはパフォーマンス、ディスク容量に影響する場合がありますので必要に応じて調節します

- 省略時の間隔： 収集間隔を細かくするとより
詳細なデータが取得できますが、
収集ジョブの負荷が高まり、
収集するデータ量が増加します。
デフォルトは15分間隔です。

- *MGTCOL保存日数：
収集したデータの保管日数です。
この期間を過ぎたパフォーマンス
データは削除されます。
収集ライブラリー内のデータが
対象です。
残したいデータは収集ライブラリ
外に退避すれば削除されません。

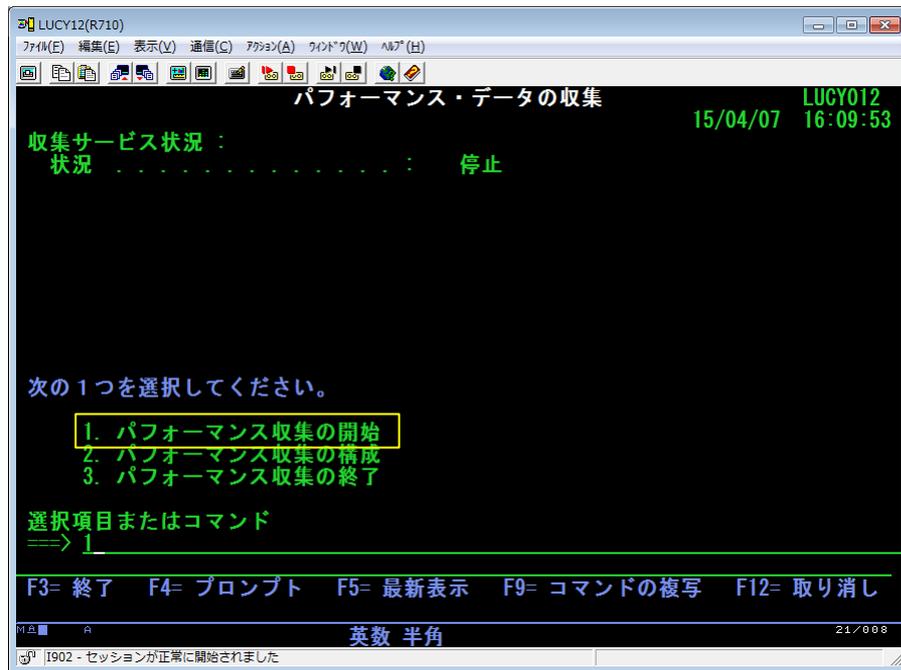
- **設定後、実行キーで前画面に戻ります。**



(停止している場合のみ) パフォーマンスデータ収集の開始



- (p.3の画面で) 「1. パフォーマンス・データ収集の開始」を実行します
 - 次画面パラメータはデフォルトで実行します (収集プロファイルは*CFG、収集の循環は*NO)
- 開始するとp.2の画面が表示されます



通常は午前0時切替の24hサイクルで取得されますので、データ収集日の翌日以降に以下の作業を行います。

- P.3で確認したライブラリーの*MGTCOLオブジェクトを一覧します。
 - 例：WRKOBJ OBJ(QPFRDATA/*ALL) OBJTYPE(*MGTCOL)
- opt8で*MGTCOLオブジェクトの記述を確認し、作成日がデータ収集日と一致しているオブジェクト名を確認します。
- 対象の*MGTCOLをSAVFに保管します。

保管したSAVFをFTP等でPCに転送し、DVD、メール等でお渡しください。

